

# JIRCAS International Symposium Series No. 12 (2004. 6)

## 摘 要

開発途上地域の食料安全保障・農林水産業の持続可能性の展望  
－国際共同研究の新たな役割－

Prospects for food security and agricultural sustainability in developing regions:  
New roles of international collaborative research

宮田 悟・多田 稔・小山 修 編

当センターでは、毎年、開発途上地域に共通する重要な研究課題を取り上げて国際シンポジウムを開催している。本年度は、第10回を記念し、平成15年11月18日及び19日の2日間、約30カ国の開発途上地域、先進国、国際機関、さらに国内から、農林水産分野の国際協力、共同研究に関わる政策形成、戦略構築、現場での実践に携わる主要な関係者約240名の参加を得て、国連大学ウ・タント国際会議場（東京都渋谷区）で開催した。

シンポジウムでは、開発途上地域におけるグローバリゼーション、自然資源や環境を巡る状況の変化が食料安全保障や農林水産業の持続的発展にどのような影響を及ぼしているのか、さらに今後の方向を展望し、それにインパクトを与えうる国際協力、国際共同研究の新たな役割と方向を異分野間の学際的知見の交流を通じて明らかにするため多くの発表および議論が行われた。

基調講演では、東京大学情報学環・東洋文化研究所の原 洋之介教授による「持続可能な21世紀の発展に向けて－農林水産業の役割の再考－」、また、国際農業研究協議グループ(CGIAR)の Francisco Reifschneider事務局長による「日本－CGIARのパートナーシップ－現場からの朗報のために！－」と題する講演が行われた。

引き続き、「飢餓・貧困の削減等に向けた国際開発目標の現状と展望」、「開発途上地域における農林水産業の持続的発展に向けた課題と展望」、「国際共同研究の戦略と課題」、「国際共同研究の戦略分野の動向と展望」の各セッションが行われ、内外の関係者から発表が行われるとともに、コメンテーターによる追加的な問題提起、一般参加者も交えた意見交換が行われた。さらに、新たにCGIAR科学理事会理事に就任された貝沼圭二氏の進行により「総合討論」のセッションが行われ、今後の国際共同研究においては先進国、開発途上地域相互の広範（＝マルチ）なネットワークを構築し、その下に効率的・効果的な国際共同研究を実施すること、またそれについて日本がイニシャチブを発揮していくことが重要であることが意見集約された。

また、翌11月20日には、JIRCAS国際会議室において、シンポジウム招待発表者らと国内の大学、独立行政法人研究機関、行政関係者によるフォローアップワークショップが行われた。

3日間を通じて、我が国のODA等の資金的支援を巡る環境が厳しくなっている中で、我が国の知的支援、またそのために国際的なリーダーシップを発揮して行くことに対して参加者から強い期待が表明された。

本冊子は、シンポジウムにおける各発表及び意見交換の内容を記録したものである。